

地域がん登録で検証した子宮頸がん 検診の問題点と改革案

—細胞診・HPVテスト併用検診の必要性—

いわ 岩	なり 成	おさむ ¹⁾ 治	くら 倉	た 田	かず 和	み 巳 ¹⁾	か 加	とう 藤	いち 一	ろう ¹⁾ 郎	
かた 片	ぎり 桐	ひろし ¹⁾ 浩	まし 岸	もと 本	とし 聡	こ ¹⁾ 子	わた 渡	なべ 辺	とも 知	お ¹⁾ 緒	
うえ 上	だ 田	とし 敏	よし 吉	の 野	なお 直	き ¹⁾ 樹	くり 栗	おか 岡	ひろ 裕	こ ¹⁾ 子	
もり 森	やま 山	まさ 政	し ¹⁾ 司	は 長	せがわ 谷川	あき 明	ひろ ¹⁾ 広	お 小	むら 村	あき 明	ひろ ²⁾ 弘

Key Word：子宮頸がん，子宮がん検診，地域がん登録，HPVテスト，若年化

要 旨

島根県の地域婦人科がん登録からみた子宮頸がん行政検診の問題点を検討し，県立中央病院の細胞診・HPVテスト併用検診結果とあわせて検診効率化改革案を提示する。

1. 島根県子宮がん検診

近年，子宮がん発見数・発見率ともに減少の一途をたどり，有効基準を大きく下回り，がん検診の有効性が失われてきている。その結果，子宮がん死亡率も再上昇しつつあり，由々しき事態となっている。子宮がん発見数は年間約50人であったものが10人に，発見率は0.18%が0.05%に激減。

原因の一つは，受診数・受診率の極端な低下にある。受診数はピーク時の1/2以下となり約2万人に，受診率は約2/3となり12.5%に低下，欧米の受診率90%に比較し極端に低く，厚労省の目標値30%にはほど遠い。

原因の二つめは，受診者の高齢化・固定化である。初回受診者は10%で固定化が著しく，罹患率の低い高齢者が繰り返し受診している。

以上の傾向は車検診に著しく，いつでもどこでも受診できる施設検診には若年者受診，初回受診者割合の上昇がみられ，がん発見率も上昇傾向にあった。

2. 島根県婦人科がん地域登録

予想に反し，子宮頸がんは漸増していて年間約100人である。そのなかで39歳以下の若年者がんは急増し30%を占め，60歳以上の高齢者がんは漸減している。若年者には初期がんが多いが，高齢者は進行がんが多くてそのほとんどは検診を受けていない。